ヘルパンギーナが流行しています

【概況】

2023 年第 28 週（7 月 10 日～7 月 16 日）の定点あたりの患者報告数※1 について、横浜市全体は **6.67** で推移しています。

直近 5 週間の報告患者の年齢構成は 2 歳 17.6%が最も多く、次に 1 歳 17.5%、3 歳 15.9%となっており、0～5 歳までで全体の 85.8%を占めています。

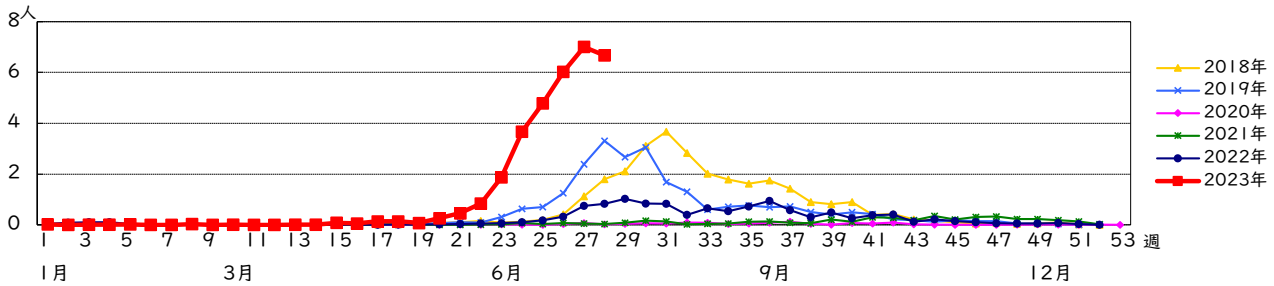
ヘルパンギーナの原因は主にコクサッキーA 群ウイルスで、市内の患者からも同様に検出されています。

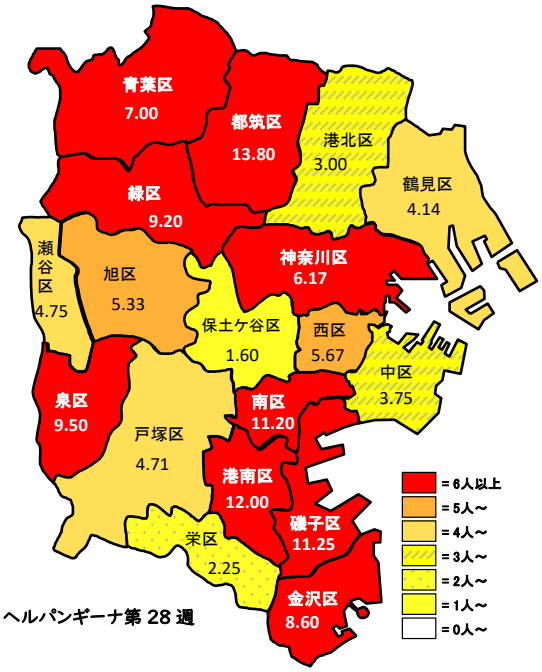
今後も引き続き発生動向には注意が必要です。

※1 定点あたりの患者報告数とは、毎週定期的にヘルパンギーナの患者発生状況を報告してくださる小児科定点医療機関（市内 94 か所）から報告された患者数の平均値です。

【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は第 22 週（0.84）以降増加し、第 26 週 6.02 で警報レベル 6.00 を上回りました。第 27 週は 7.00、第 28 週は 6.67 で推移しています。





ヘルパンギーナとは

ヘルパンギーナは 2～4 日の潜伏期間の後、突然の発熱に続いて咽頭痛が出現する感染症です。咽頭粘膜は赤くなり、特にのどの奥に 1～2mmの水ぶくれ・潰瘍が出現します。通常は 1 週間程度で治ります。発熱時に熱性けいれんを起こすことがあります。まれに髄膜炎などの重い合併症が起こる場合もありますので、発熱・頭痛・嘔吐がひどい場合は、早めに医療機関に受診しましょう。

感染経路は接触感染・経口感染・飛沫感染で、予防のためには手洗いが大切です。回復後も数週～数か月ほど便からウイルスが排出されるため、おむつ交換後などは、よく手を洗いましょう。

【お問い合わせ先】　横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課　TEL 045（370）9237
横浜市医療局健康安全課　TEL 045（671）2463